

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

②施設・事業所情報

名称：鳩の森愛の詩保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：瀬沼 静子	定員（利用人数）： 135名（132名）
所在地：〒245-0009 横浜市泉区新橋町765-3	
TEL：045-811-5002	
ホームページ： https://www.hatonomori.jp	

【施設・事業所の概要】

開設年月日 1985年3月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）： 社会福祉法人 ほとんどの会		
職員数	常勤職員： 32名	非常勤職員（嘱託員等含む）： 15名
専門職員	保育士： 32名	看護師： 1名
	栄養士 3名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	保育室10室、事務室・医療コーナー1室、子育て支援室1室、相談室1室、職員休憩室1室、給食室、ランチルーム、ホール	

鳩の森愛の詩保育園は、相鉄線「弥生台」駅から徒歩約2分の所にあります。付近には公園や畑、森などがあります。園は、1985年（昭和60年）3月、無認可保育園として近くの住宅地に開園し、1999年（平成11年）8月に認可保育園となりました。運営法人は、社会福祉法人ほとんどの会で、法人は他に認可保育園を4園、放課後キッズクラブを2か所、一時預かり事業を2か所運営しています。

2019年（令和1年）9月に移転・新築した園舎は鉄骨筋2階建てで、1階を保育室、2階は法人事務局や職員更衣室として用いています。広々とした園庭には築山やアスレチック小屋・登り棒などがあり、子どもたちがさまざまな遊びができるようになっています。定員は135名（0～5歳児）、平日の開園時間は7時～20時、土曜日は7時～18時です。

③理念・基本方針

・保育理念

鳩の森は、子どもたちを真ん中に、保育者と父母が手をつなぎ合い、支え合い、成長し合うことを「共育て共育ち」と呼んで、日々の暮らしの原点にしています。なかまと一緒にあそび、思い描いたことを実現していく力、お互いを思いやる心を、人間として生きていく大切な根っこと考えます。

子どもたちは、平和な幸せな世の中をつくる担い手です。子どもたちのありのままの姿を受け入れ愛し、一人ひとりがかけがえのない存在として成長していくことを保障する保育園でありたいです。

・保育目標

自分らしさを尊重する中で、かけがえのない自分を育む

④施設・事業所の特徴的な取組

- 積極的に戸外に出かけ、自然の中で身体と心をたくさん動かします。園庭には様々な果樹が植えられ、四季の変化を楽しみます。
- 保育室や園庭に、手作りの遊具を作り、子どもたちが自ら働きかける環境づくりを行っています。
- 食べることは、生きること。旬の食材をいかし、産地や食材の安全性にこだわった献立作りを行っています。また、アレルギーの卵、乳製品を使わない献立を「なかよし給食」と呼んで、食物アレルギーの有無にかかわらず、安心安全な給食を提供します。

- ・本物の文化や芸術に触れる機会をできるだけ多く持ちます。保育の中で、和太鼓や民舞に取り組み、文化的な体験を味わうことを大切にします。
- ・うたや絵本などを通して、平和を慈しむ心を育みます。
- ・なかまと共に様々な経験を通して、自ら意欲的に学ぶ力を身につけていきます。障害のあるなしにかかわらず、共に育ち合うことを大切にします。
- ・個を大切にするために、職員も子どももお互いに「名前」で呼び合っています。一人ひとり生まれたその日にお誕生日のお祝いをします。
- ・たくさんの保護者がお互いに支え合う「父母の会」と連携しながら、子どもたちの豊かな経験、活動を支援していきます。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年6月28日(契約日)～2023年4月3日(評価結果確定日)
受審回数(前回の受審時期)	4回(2017年度)

⑥総評

◆特長や今後期待される点

【特長】

●子どもたちは自分らしさを発揮し、園生活を楽しんでいます

園は、子どもが自らやってみたいと思い、自分から主体的に園生活を過ごせるように環境整備に力を入れています。保育室には、子どもの年齢や発達、興味・関心に合わせたおもちゃや絵本などが並べられ、遊びのコーナーやロフトなどが設けられていて、子どもが自分で好きな遊びを選び、友だちと一緒に遊んだり、一人で落ち着いて取り組んだりできるようになっています。生活面でも、子どもが好きな服を選んだり、自分でしまったりできるような個別の着替えかごを全園児用意するなどして、0歳児でも好きな服を選び、自分で着替えようとしている姿が見られます。余裕のあるデイリープログラムとなっていて、子どもが時間に縛られることなく、心行くまで遊びこむことができます。保育士は子どもの遊ぶ様子を見守り、一緒に遊んだり、子どもの発見と一緒に喜んだりしています。自分で遊びを見つけられない子どもには個別に寄り添い、一緒に遊びを探しています。小グループでの活動も多く、幼児は、友だちと話し合って遊びのルールを決めたり、共同製作をするなどしています。季節の製作や歌、体操、太鼓、民舞(荒馬踊り)など、様々な表現活動を取り入れ、子どもが好きなことを見つけ、自分らしさを発揮できるようにしています。晴れていれば毎日園庭で遊んだり、季節の自然に触れたりしていて、異年齢の子どもたちの関わり合いも多くあります。また、保育士だけでなく、給食や用務、事務室や実習生、保育参加の保護者など多くの人と関わる機会もあります。このような関わりを通し、子どもたちはお互いの良さを認め合い、園生活を伸び伸びと楽しんでいます。

●保育士は話し合いや研修を通して方向性を共有し、子どもを尊重した保育を実践しています

保育士は、外部講師を招いてのセミナー、保育研究会、事例研修発表会などの法人研修のほか、園内研修や職員会議でも具体的な実践事例をあげてグループワークをするなどし、保育が理念に沿っているかを確認しています。クラスでのカリキュラム会議では、一人ひとりの子どもの姿を共有して振り返り、子どもを尊重した関わりについて話し合っています。このような取り組みを通して方向性を共有し、保育士は一人ひとりの子どもの気持ちを大切に見守り、子どもの発見やできたことを一緒に喜んだり、楽しんだりし、子どもを尊重した保育を実践しています。

●保護者との密接な関係が築かれています

園は、保育理念の「子育て、共育ち」に沿って保護者と協力し、子どもが園生活を楽しみ、成長できるようにしています。日々の会話や連絡帳、懇談会、園だよりなどで園の取り組みを伝え、保護者の園への理解を深められるようにしています。保育参加、春と秋の「親子であそぼう会」などで日常の子どもの成長の様子を共有しています。保育環境整備ワークショップには、保護者も参加し、職員と一緒に協働しながら環境づくりに取り組むなど、保護者と密接な関係が築かれています。

●地域の福祉施設として地域に根差しています

園は、地域のお祭りで5歳児が荒馬踊りを披露するなど、地域との関係づくりに力を入れています。無認可時代から地域との交流を深めてきた結果、自治会の人や保護者OBなどが園に気軽に立ち寄り相談したり、寛いでいくなどの関係性ができています。保護者OBが地域のグラウンドで遊ぶ子どもの姿を見守ったり、定期的に訪れて本の修理をするなどし、子どもと交流しています。地域子育て支援としては、園庭開放や育児講座、交流保育などを実施しています。地域のニーズを受けて地域子育て支援「ぽっぷこーん」を開催し、週3回園舎内の一室を使って親子で遊べる機会を作っています。

【今後に期待される点】

●キャリアパスの仕組みを構築し、働きやすい職場を作っていくことが期待されます

園は、重点目標に職員の働きやすい職場づくりを掲げ、ストレスチェックやノンコンタクトタイムを導入するなど、様々な取り組みをしています。夜の研修にオンラインでの参加も可能にするなど、ワークライフバランスにも配慮しています。休憩時間の確保や有給休暇の取得も進めていますが、全員の取得までには至らず、職員からも仕事量の多さについての声も聞かれます。ICT化の推進や業務の効率化を職員と話し合いながら進めていくことが期待されます。また、職員一人ひとりの多様な働き方の願いがかない、自分の将来の姿を描けるような仕組みを作っていくことが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価の学習会では、一つひとつの項目を、私たちの保育と重ねながら話し合いをすすめました。保育の中で大切にしていることをお互いに話し、言語化することで、改めて気づくことも多く、新人職員も、中堅、ベテラン層の職員も、共通に理解をする機会になりました。結果講評の中で、子どもたち一人ひとりを大切に保育しているとお声をかけていただいたことも励みになりました。これからの時代に即した職員一人ひとりの働きやすさについても保育と同様に考えすすめていきたいことです。

利用者・家族アンケートでいただいたご意見の中で、送り迎えの際の情報交換の点が課題にあがりました。コロナ禍で中央テラスでの受け入れをしてきましたので、十分に保護者の方に声をかけられなかったことがあると職員からも意見が出ました。年明けから室内での受け入れを再開しましたが、送迎の際の声かけを職員一人ひとりが丁寧なことを心がけながら、保護者のみなさんに安心を届けられるように努めたいと思います。ありがとうございました。

鳩の森愛の詩保育園
施設長 瀬沼 静子

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり